

広島地域IPv6推進委員会 ～ インターネットの普及活動 Again ～

理事・副運営委員長 前田 香 織 (広島市立大学 情報処理センター)

現在のインターネットで使用されているIPv4のアドレスの枯渇が話題になったのは1990年代の中ごろで、次世代インターネットプロトコルとしてIPv6 (IP バージョン6) の開発が始まりました。一方でセキュリティ対策を主な目的として、プライベートアドレスやNAT (Network Address Translation) などの技術が多用され、アドレス枯渇に関する危機感が薄れたことも影響し、IPv6の普及は必ずしも当初想定されたペースでは進んでいません。しかし、IPv4アドレスの枯渇は着実に進んでおり、2006年3月に社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC) から「IPv4アドレス枯渇に向けた提言」という報告書が公開されました。この中でIPv4アドレスの割り振り・割り当てはそう遠くない将来において終了することが明示されています。また、「新しいIPv4アドレスが割り当てられないことから、IPv4を基盤としたインターネットの成長は停止あるいは縮退していくことになる。」と述べています。

こうした現実を踏まえ、2005年7月に「広島地域IPv6推進委員会」(委員長：前田香織)を設立しました。本委員会ではIPv6の技術的課題を検討するとともに、広島地域においてIPv4からIPv6への移行が確実かつ円滑に行えることを実証し、IPv6の導入および普及を推進することを目的としています。委員会は委員会の設立目的に賛同する自治体、大学、企業より構成され、CSIと連携して各種実証実験を企画立案・実施していくことで当地域でのIPv6の普及を図ります。平成17年度は総務省IPv6移行実証実験に参加し「学校間映像配信実験」を実施してIPv6の技術的な優位性を示すとともに、IPv6を身近に感じるためのIPv6コンテンツの充実を図りました。詳細はSuperCSI技術委員会の報告書「SuperCSI活動報告2005」やホームページ <http://www.supercsi.jp/ipv6deploy/> をご覧ください。(写真上はIPv6を用いた広島大学附属東雲小学校と広島市立白島小学校間の遠隔授業風景、写真下は広島市こども文化科学館でのコンテンツ収録場面)

IPv6の普及の活動をしていると、現インターネットが普及し始めた1990年頃を思い出します。「IPv6って何?」「IPv4よりいいことある?」「つながる相手がいない」という声があちこちから聞こえてきます。IPv4がここまで生活に浸透している現状を考えると、IPv6への移行はIPv4の普及以上に時間がかかるかもしれません。地域のみなさまのご支援をお願いいたします。



CSI役員・運営委員

理事長	椿 康和
副理事長	相原 玲二、染岡 慎一
理事	片山 博昭、小関 祐二、土肥 章裕、西村 浩二、前田 香織、前田 真理、吉田 典可
監事	石永 正隆、大場 充
運営委員	相原 玲二(委員長)、前田 香織(副委員長)、今井 一雅、上野 優香、田島 浩一、玉井 基宏 西村 浩二、野村 怜子、匹田 篤、前田 真理、松川 正義



(2006年5月22日現在)

CSIとアジアと世界

JPNIC理事, APNG Chair 松本 敏文

”チョキ、チョキ、グー、パー、パー、グー、-----” デオデオ経由でやっと手に入れたゲーム機の頭脳年齢ゲーム。大きな声を出して格闘するも、敢え無く”あなたの年齢は57歳”。本人はもっと若いと思い込んでるから、愕然とする。昭和24年(1949年)2月広島生まれ。いまや世に名だたる団塊の世代。これからが人生もっとも充実した時期を過ごせると信じてやまない。広島カープの初優勝を後樂園球場で、万歳を叫びながら涙を流して喜んだ熱き世代。気持ちは若い。

CSIとのお付き合いはもう長い、かな!? 個人正会員を募集し始めてすぐの会員だから。個人として、インターネットの発展に寄与したいという気持ちは強く、広島から中四国地域の活動を通じて世界へと。CSIのお陰で、ついに素晴らしい若者たちに出会うことが出来た。彼らは、CSIをリードし、日本の、いや世界の次世代を担う若者たち。初めて出会ったのは2004年2月。とても寒い京都、第6回APNG Campでのこと。CSIから参加の高校生と、大学生のチームは、IPv6の研究成果を見事に発表してくれた。それも発表者は高校生。日本の若者の素晴らしさを、アジア全体に知らしめた瞬間だった。サポートの大学生も、付き添いの英語の先生も、責任者の私も、皆鼻高々。最高のプレゼンテーションは、CSI発だった。

APNG (Asia Pacific Networking Group) は、アジア太平洋地域のインターネットのマザー組織。APNIC, APRICOT, APCIRT, APTLD等々多くの AP*組織がここから生まれてる。APNG Campは、インターネットの次世代を担う若者たちを発掘し、育てようという目的で作られたプログラム。2002年2月バンコクで第1回を開催して以来、上海、台北、釜山、ケアンズ、京都、台北と7回の開催を数える。第5回のケアンズのキャンプから、フェロシッププログラムを開始し、各方面からの協力により、発展途上国の若者の参加を得ることが出来るようになった。そのお陰で、述べ500名を越える若者が、20カ国以上から参加。お互いの国、地域の文化、技術、インターネット事情、教育、等の情報交換や議論を重ね、友好を深め将来を築きあっている。CSIからの参加は第6回の京都が最初だが、昨年8月の第7回台北キャンプでは既に第2陣が参加、活動の中心的役割を担い始めた。APNG CampのVice Chair、教育WGのチェアがCSIのメンバーだ。APNG Campの創始者の一人として、CSIのメンバーが日本を代表してAPNG Campのリーダを勤めることは非常に誇らしい。

第8回キャンプは、今年7月18日からシンガポールで行われる。地の利の良さゆえ、今迄で最高の参加者が見込まれ、又盛りだくさんのトピックスや議題が準備されてる。加えて、APNG Camp最初の国際カップル(6月に結婚予定)も生まれる。アジアに生きる若者達の逞しさ、夢、そして現実の厳しさを身近に知ることが出来る。是非、CSIから世界へ羽ばたき、アジアに生きる大切さと素晴らしさを知ってほしい。頭脳年齢”団塊の世代”としては、これからも頼もしいCSIの若者と、アジアの若者を応援したい。



第6回APNG Camp (2004年2月21日, 京都)

LiveE! ～活きた地球の環境情報～

<http://www.live-e.org/>

LiveE! 副査 相原 玲二
(広島大学 情報メディア教育研究センター)



LiveE! プロジェクトは、環境情報を取得する「デジタル百葉箱」などを利用し、地球(Earth)に関する活きた(Live)環境(Environment)情報が自由に流通し共有される電子(Electronics)情報基盤を形成発展させ、自律的で自由な環境情報の利用法、安心安全で効率性の高い活動空間の創造を目指しています。LiveE! を推進する協議会(主査: 江崎浩 東京大学教授)は2005年5月12日に発足し、全国各地(一部、海外)に設置した気象観測装置の情報収集・流通技術、利活用方法、利用システム開発などを行っています。中国・四国地域では、現在9箇所からLiveE! へ情報提供しており、観測点はさらに増える予定です。



気象センサユニット
(広島大学附属福山中・高校)

LiveE! が対象とする環境情報は、温度、湿度、降雨量など一般的な気象情報のみならず、CO₂濃度などの環境情報、雲の画像など多岐に渡っています。これら多くの人々が共通に必要なとする無数の情報をリアルタイムかつ自由に発信・受信・流通できる基盤を構築することは、ネットワークのひとつの応用に留まらず、インターネットの発展・普及段階と共通するものを感じます。本プロジェクトに対するご理解とご協力をお願いいたします。

会員紹介シリーズ No.12

株式会社ネツスプリング (<http://www.netspring.co.jp/>)

1993年、任意団体CSIが産声を上げた当初、ネツスプリングの前身であるSES(株)内に初代CSI事務局が設置され、まさにCSIとともに歩んでまいりました。ネツスプリングは2000年3月に広島市内に設立し、時を同じくしてNPO法人化されたCSIのネットワーク

運用保守業務を受託し、ネットワーク関連のSI、運用保守の会社として営業してまいりました。

2004年3月末にCSIのネットワーク運用保守業務を終了し、現在は、ネットワークアプライアンス装置の開発、製造、販売を主とした会社へシフトしております。2003年1月より販売を開始した「LANアクセス管理システムFEREC」(<http://www.ferec.jp/>)は、LAN上の端末に対して非常に簡単に、かつ適切なリソースコントロールを行える製品として全国多数の大学、高等専門学校にご導入頂いております。FERECも今年は新たにブリッジタイプの製品をリリースし、今まで以上に容易に導入、運用管理できる製品へと進化しております。今後も認証サーバアプライアンスなどネツスプリングの独自性を生かした製品の開発に取り組み、使い易いネットワークトータルソリューションを皆様にご提供していきたいと考えております。(文責:伊藤武司)



CSIネットワークマスター 虎の穴について

セミナー実行委員会委員長・運営委員 **松川正義**
(株式会社 エヌ・ティ・ティ ネオメイト中国)

2005年7月21日から始まったCSI技術セミナー「CSIネットワークマスター 虎の穴」(<http://www.csi.ad.jp/seminar/>)ですが、皆様の多大なるご支援を頂き、2006年4月13日の第5回まで、無事開催することができました。なかでも第3回のセミナーは広島を離れ高知でも開催することができ、当日は多くの方々に参加頂き、大変嬉しく思っております。今後も右のような日程でセミナーを開催する予定です。是非皆様お誘いあわせの上、多くの方々にご参加頂ければと思います。

2006年7月	技術者向けセミナー (第6回)
9月	一般向け市民講座
12月	技術者向けセミナー (第7回)
2007年1月	一般向け市民講座

【事務局便り】

事務局からのお知らせ

CSI事務局長 **染岡慎一** (安田女子大学)

昨年の接続事業切り離し以降、CSI事務局はNPO本来事業に専念する事務局として、事業規模に見合う事務所所在地、事務局員体制のへの見直しを行ってきました。現在は、以前事務局を置いていた上八丁堀のハイオス広島に事務局所在地を移し、また、専任の事務局員を廃止し事務局所在地に事務局員が常駐しない状態となっております。通常の事務局業務はハイオス広島の電話受付代行サービスを利用し、随時学生アルバイト等を使用する事等によって対応しております。特に、電話での連絡は間接的なコミュニケーションとなるため、事務局に御用の場合はできるだけ電子メール sec@csi.ad.jp をご利用下さいますようご協力よろしくお願い申し上げます。

CSI会員紹介 (2006年5月22日現在)

団体正会員 (18組織)*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#dantai>

学校法人 広島国際学院、学校法人 高知工科大学、学校法人 福山大学、株式会社 ネットスプリング、株式会社 広島市産業情報サービス、株式会社 ラディックス、呉大学、高知工業高等専門学校、高知女子大学、財団法人放射線影響研究所、ネットワン・システムズ株式会社、比治山大学、広島商船高等専門学校(マルチメディア時代における教育研究会)、広島市立大学、広島大学、福山平成大学、安田女子大学、弓削商船高等専門学校

賛助会員 (13組織)*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#sanjo>

株式会社イーサイド、株式会社内田洋行、株式会社エヌ・ティ・ティ ネオメイト中国、株式会社エヌ・ティ・ティ・マーケティングアクト中国、株式会社エネルギア・コミュニケーションズ、株式会社ジャストシステム、株式会社日立製作所中国支社、株式会社ミウラ、総務省 中国総合通信局、中国電力株式会社、西日本電信電話株式会社広島支店、日商エレクトロニクス株式会社中国支店、日本電子計算株式会社

個人正会員 (59名) <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#kojin>

編集後記

次世代インターネットでは、IPv6の技術が中心となると言われて久しいですが、いよいよIPv6が目の前に広がってきたことを、今回の前田先生の記事から実感できました。このCSIの新しい挑戦を皆で情報共有しながら着実に進めていきたいものです。(KI)

2006年5月23日

企画広報部会・広報誌編集担当 今井一雅、上野優香、土肥章裕、野村怜子

